

■佐藤尚武 外交官、政治家。軍国主義化の中、国際協調を模索、ソ連への和平仲介要請に、もはや無条件降伏と主張。

さとうなおたけ
新体詩抄・ ・ 1882＝ 大阪で旧津輕藩士田中坤六の次男に生れ、

外交官・政治家・戦時下に

帝国憲法発布1889＝ 7歳：

足尾鉋毒始・ 1891＝ 9歳：

日清戦争始・ 1894＝12歳：

ピアノ国産化・ 1900＝18歳：
長じて_外交官佐藤愛麿の養子となり、佐藤家を継ぐ。

日露戦争終・ 1905＝23歳：東京高商(一橋大)在学中に、_外交官及領事官試験に合格して、外務省に入り、
満鉄発足・ ・ 1906＝24歳：_ロシアに赴任、

伊藤博文暗殺1909＝27歳：

明治天皇没・ 1912＝30歳：

第一次大戦始1914＝32歳：ハルビン領事に転じ、

ロシア革命・ 1917＝35歳：_総領事となり、シベリア出兵問題に対処、居留民の安全確保のため連合国軍隊の出動を要請。
本格政党内閣1918＝36歳：

原敬首相暗殺1921＝39歳：
スイス公使館一等書記官、
仏大使館参事官等を経て、

関東大震災・ 1923＝41歳：_特命全権公使でポーランド駐在となり、

治安維持法・ 1925＝43歳：_ソ連臨時代理大使として、国交樹立に伴う大使館開設にあたる。
この間、国際連盟の各種会議に活動、

金融恐慌・ ・ 1927＝45歳：*国際連盟日本国事務局長となり、
ジュネーブ海軍軍縮会議の全権委員随員、事務総長から、

海軍軍縮条約1930＝48歳：_ロンドン軍縮会議全権随員もつとめた後、ベルギー駐在特命全権大使となり、
満州事変・ ・ 1931＝49歳：_<満州事変>勃発をめぐる国際連盟会議で日本代表の一員を務め、

国際連盟脱退1933＝51歳：_国際連盟臨時総会で松岡洋右首席全権とともに満州国否認決議に抗議退場。フランス駐在特命全権大使。

二二六事件・ 1936＝54歳：

日中戦争始・ 1937＝55歳：*林内閣の外相に迎えられ、外交危機は'日本の考え方一つ'との議会発言が軍部の反発を招き、内閣崩壊。

のち外務省顧問、日伊修交経済使節団長。

日米開戦・ ・ 1941＝59歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1942＝60歳：_東郷茂徳外相の懇請でソ連大使となり、折衝に努める。

敗戦・ ・ ・ 1945＝63歳：*太平洋戦争末期、ソ連への和平仲介依頼を命ぜられたが、無条件降伏のほかはないことを強く主張した。

新憲法公布・ 1946＝64歳：抑留生活を終えて帰国し、枢密顧問官に任ぜられた。

新憲法施行・ 1947＝65歳：_以来、没年まで国際連合協会会長。参院議員となって山本有三の緑風会結成に協力、以来当選3回、
のち同志会に属し、
三大事件・ ・ 1949＝67歳：_参院議長、

独立回復・ ・ 1951＝69歳：

TV放送始・ ・ 1953＝71歳：参院議長を退任。伊勢神宮奉賛会長。

自衛隊発足・ 1954＝72歳：
その後も外務委員長などをつとめる。

国連加盟・ ・ 1956＝74歳：_日本の国連加盟を承認した第11回国連総会に、日本代表の1人として出席。

安保闘争・ ・ 1960＝78歳：

TV宇宙中継始1963＝81歳：「回顧八十年」。

大学紛争始・ 1965＝83歳：*政界を引退し、

ドルショック・ ・ 1971＝89歳：_没した。

「日本史重要人物101」、